裁判員経験者の意見交換会議事要録

日 時 平成29年10月18日（水）午後3時00分から午後4時51分

場 所 横浜地方裁判所中会議室

参加者等

司会者 片山 隆夫（横浜地方裁判所第4刑事部部総括裁判官）

裁判官 西 沢 諒（横浜地方裁判所第4刑事部裁判官）

検察官 寺 尾 智 子（横浜地方検察庁検察官）

弁護士 豊 島 健 司（神奈川県弁護士会所属）

裁判員経験者1番 50代 男性 （以下「1番」と略記）

裁判員経験者2番 70代 男性 （以下「2番」と略記）

裁判員経験者3番 50代 男性 （以下「3番」と略記）

裁判員経験者4番 40代 男性 （以下「4番」と略記）

裁判員経験者5番 20代 男性 （以下「5番」と略記）

議事要旨

（司会者）

ただいまから、裁判員経験者と法曹三者の意見交換会を始めます。

この会の趣旨は、裁判員制度実施後、当裁判所におきましても数多くの裁判員裁判が実施され、事例や経験が集積されておりますが、法曹三者の立ち会いのもとで、できるだけ多くの裁判員経験者の方から御意見や御感想を伺い交換する機会を設けることで、今後の制度の運用の参考にさせていただくというものであります。

本日は5名の裁判員経験者に参加していただきました。お忙しい中、御協力いただきまして誠にありがとうございます。

この5名の方々は、昨年4月から12月までに判決を言い渡しました事件に裁判員として関与された方であります。先ほどの趣旨を踏まえ、率直な御意見、御感想をおいしゃっていただきますようお願いいたします。

また、本日は法曹三者にも参加していただきました。まず自己紹介を順番にお願いしたいと思います。

それでは、まず西沢裁判官からお願いします。

(裁判官)

横浜地方裁判所の裁判官の西沢と申します。私は横浜に来て裁判員裁判等の刑事裁判を担当して3年目になります。

本日は、今後よりよい刑事裁判を実現していくために皆様の意見を聞かせていただきたいと思います。

よろしく願いいたします。

(司会者)

では、続いて寺尾検察官、お願いします。

(検察官)

横浜地方検察庁の検事の寺尾と申します。横浜地方検察庁で勤務をするのはこの4月からということになりますが、それ以前は東京地検と他の地検で裁判員裁判を経験しております。4月以降も何件か裁判員裁判に立ち会っております。

(司会者)

では、豊島弁護士、お願いします。

(弁護士)

神奈川県弁護士会の弁護士の豊島と申します。私は、刑事弁護センター運営委員会といいまして、弁護士会で主に刑事弁護をつかさどっている委員会の事務局長という形で関与させていただいております。裁判員裁判は弁護士としては比較的多く、十三、四件は担当させていただいております。裁判員経験者の方々との意見交換会も今回3回目の出席ということになります。

この場で皆様から伺った御意見について、弁護士会にまた持ち帰って、皆で共有できればと思っておりますので、本日はどうぞよろしく願いいたします。

(司会者)

申し遅れましたけれども、本日、司会を務めさせていただきます横浜地裁第4刑事部の片山でございます。昨年4月に当裁判所に参りまして、それまでに静岡の沼津、埼玉でも裁判員裁判に携わりました。どうぞよろしく願いいたします。

それでは、意見交換に入りたいと思います。

最初の話題として、裁判員を経験しての全般的な感想を伺いたいと思います。

皆様は、裁判員に選ばれたときと実際に裁判員として職務を全うしたときとでは、御自身のお気持ちに違いはあったのでしょうか。この点について伺います。

まず、裁判員経験者1番の方が担当された事件は、殺人ということで、被告人が、自宅で眠っていた父親の胸を包丁で刺して、父親を殺害したというものです。

1番の方、裁判員に選ばれたときと職務を全うしたときとで、お気持ちの違いなどについて御感想をお話してください。

(1番)

裁判員に選ばれたときは、あら、どうしようかな、すごい写真とかを見せられるのではないかなと思ってはいたのですけれども、実際はそうではなくて、分かりやすいイラストや現場の写真、刺激的でないものが出ました。

職務というか裁判員をやっていく上で、これはいろいろ考えないといけないなということで、裁判員の皆さんといろいろな話をして、これは国民として経験しておいた方がいいものではないかと感じました。

(司会者)

ありがとうございました。

1番の方は4日間、裁判所に来ていただいたようですね、長く感じられましたか。お疲れになられましたか。

(1番)

4日間なのでですね、一番最初の日是非常に長く感じました。緊張もあるせいか、一日が非常に長く感じたように思います。

2日目、3日目になっていきますと、皆さん、裁判員の方も打ち解けて、事件の

話も出る中で、こうじゃない、ああじゃないといろいろな議論が出た中では、割と穏やかな話の中で進めていかれたので、それからは割とゆったりとした時間が過ぎていきます。

(司会者)

ありがとうございました。

裁判員経験者2番の方が担当された事件は、危険運転致死傷、道路交通法違反ということで、被告人が、自動車を運転し、右カーブの道路において、その進行を制御することが困難な高速度で自車を走行して暴走させ、道路左端を歩いていた3名に自車を衝突させて、うち1名を死亡させ、残る2名に重傷を負わせたのに、事故後、被害者の救護も警察への報告もせず、現場から逃走したというものでしたね。

2番の方、裁判員に選ばれたときと職務を全うされたときとで、お気持ちの違いなどについて御感想をお話してください。

(2番)

一応選ばれたというのは、後から知ったことかもしれませんが、神奈川県で8千人ぐらいの中の確率で選ばれるという非常に名誉なことというか、当たってすごいなという感触を持ちました。

たまたまこの裁判員裁判が始まる頃に、そういう関連の本を出した人が友達だったので、その本を読んだら、参加をして庶民というか国民の目線で裁判に参加するというようなことが書いてあったということで、入口は全然不安を感じなかったです。

その後、裁判所からだと思えますけれども、いろいろな資料を送っていただいて、非常に懇切丁寧に分かりやすいことが書いてありました。

案件自体は、一般的に身近に起こる事件、カーブを40キロのところを78キロぐらいでばっと走って行って、少しアルコールが入っていたと思うのですけれども、曲がり切れずに突っ込んでいった、そういう案件だったものですから、血を見るようなこともなくて。

ただ、現場の写真をちゃんと写しているのですね。その写真を見たもので、かわいそうなことをやったのだなということを考えながら、非常にわかりやすい案件だったと言うと失礼なのですけども、すんなりと終わったような気がします。

(司会者)

達成感とかやったという気持ちが、終わったらあったのでしょうか。

(2番)

求刑が12年とかで、結果が11年で終わったのですけれども、被害者の方が裁判の経緯の中で、やはり娘さんを亡くしたものだから、22歳だったと思うのですけれども、涙ながらの現場だったので、そういうことを考えると非常にかわいそうだなと思いながら終わりました。

達成感という感じはあまりなかったと思います。

(司会者)

ありがとうございました。

2番の方は全部で6日間、裁判所に来ていただいたようですけども、長く感じられましたでしょうか。

(2番)

とにかく初めてなもので、こういう手順でやられるのだなということで、淡々と終わりました。

(司会者)

ありがとうございました。

裁判員経験者3番の方が担当した事件は、傷害致死ということで、被告人が、自宅で、父親に対し、その体を蹴ったり、頭を椅子で殴ったりするなどの暴行を加え、7日後に父親を死亡させたというものでしたね。

3番の方、裁判員に選ばれたときと職務を全うされたときとで、お気持ちの違いなどについて御感想をお話してください。

(3番)

最初に周りの人間がこういう裁判員に選ばれた人がいなかったのので、周りの人も含めてびっくりしました。

裁判をやっているときに、まず1日目にいきなり裁判が始まるので、裁判を見たこともやったこともないので、何が何だかよく分からないで始まったというように記憶しています。

そのうちにだんだん慣れてきて、どうせ裁判官の人がこうだと言って、それで、皆さん何かありませんかと言ったときにないですと言って、それで決まってしまうのだろうと、みんなで話していた記憶があります。

ただ、実際にやってみると、みんなで意見を出し合って、裁判官が全部どんどん主導して持っていくというような感じではないのだなという印象があります。

やった後、先ほども話したのですけれども、テレビや新聞などで裁判員裁判という文字や音声が聞こえると、何かな、どんな裁判なのだろう、何か今、評議しているのかなというようなことは今も感じています。

(司会者)

ありがとうございました。

3番の方も6日間、裁判所に来ていただいたようですね、長く感じられましたでしょうか。

(3番)

いいえ。長くは感じませんでした。

(司会者)

ありがとうございました。

それでは続きまして、裁判員経験者4番の方が担当した事件は、傷害致死ということで、被告人が、飲食店や路上で、知人の男性に対し、その顔面を多数回拳で殴るなどの暴行を加え、その知人を死亡させたというものでしたね。

4番の方、裁判員に選ばれたときと職務を全うされたときとで、お気持ちの違いなどについて御感想をお話してください。

(4番)

裁判員制度というのができたときに、私は是非これはやりたいなと思っていました。相当な確率の中で選ばれたというところで裁判員裁判に参加してみたのですけれども、私としては日数が短かったと思っています。終わった後、もっと何かできたかなとか、もっと勉強して臨みたかったと思っています。

ただ、その日数の中では、仕事をしながらというところもありますので、なかなか予習をしてということができなかったのですね。そんなところで、終わった後、1年経ちましたけれども、どうしても何かもやもやした気持ちをいまだに引きずっています。

(司会者)

そうすると、4番の方は5日間、裁判所に来ていただいたようなのですけれども、もっと長くても良かったという感じですか。

(4番)

そうですね。個人的にはそうは思っているのですが、これは複数の方で話をしなければいけないことですから、そんなに日数を多くして拘束しても仕方ないのかな、その限られた日数で結論を出さなければいけないのだなと思っています。

(司会者)

ありがとうございました。

最後に、裁判員経験者5番の方が担当した事件は、殺人ということで、被告人が、自宅で、父親の胸を包丁で刺して、父親を殺害したというものでしたね。

5番の方、裁判員に選ばれたときと職務を全うされたときとで、お気持ちの違いなどについて御感想をお話してください。

(5番)

自分自身の裁判に参加した前後のことに関しては、初めて人の生き立ちとかを気にするようになったというのが一番大きいかなと感じています。

今までは、自分が中心となって物事を考えていたことが結構多かったのですけれ

ども、こういう環境で育つとこういう思想を持つのだなというのを学べたというか、感じることができました。

裁判に対する気持ちというのは、正直なところ、今までは全く興味がなくて、テレビとかで流れても何も思わなかったのですけれども、ちらっと何か映ったり音声が入りこえたりすると、多少耳を傾けたりということはするようになりました。

(司会者)

ありがとうございました。

5番の方、5日間、裁判所に来るのはしんどい方だったでしょうか。

(5番)

いいえ。私自身は結構時間があるなど。ずっと法廷の中にいるものだと勝手に思っていたのですけれども、実はそうではなくて、休み時間も非常に長くあったりして、自分自身は、結構ゆっくりというか余裕のあるスケジュールだなと感じました。

(司会者)

ありがとうございました。

それでは、次の話題に移らせていただきます。

今回、皆様が御担当なされた事件は、いずれも被害者がお亡くなりになったという点で共通します。法廷で包丁などの証拠物、傷口の写真、血の付いた現場の写真などを証拠として取り調べる場合があると思います。このような刺激的な証拠について御意見、御感想をいただきたいと思います。

まず1番の方と5番の方は、法廷で包丁を御覧になりましたか。

(1番)

はい。

(司会者)

1番の方は御覧になったのですね。5番の方はいかがですか。

(5番)

私も見ました。

(司会者)

殺人に使われた凶器を見て、どのように感じましたか。

まず、1番の方はどうでしょうか。

(1番)

これが凶器なのだなという感じです。特にそれ以外は何も感じなかったですね。これで殺してしまったのかなというぐらいです。

(司会者)

5番の方はいかがでしょうか。

(5番)

特に、これが凶器のだと、言い方は良くないかもしれませんが、テレビとかを見ているような感じでした。

(司会者)

ここにいらっしゃる5人の方の中で、御遺体の一部でも写された写真を見た方はいらっしゃいますか。

5番の方は御遺体の一部でも写された写真を御覧になっているのですね。

(5番)

確か倒れた写真だったと思います。

(司会者)

その御遺体が倒れているのを写された写真を見て、どのようにお感じになりましたか。

(5番)

かなり加工がしてあったので、うわっとか思った記憶はあまりなかったです。結構客観視というか、こういう状態だったのだなというのは分かりました。

(司会者)

今おっしゃった加工されたというのは、カラー写真そのものというよりはセピア色とか白黒写真だったとか、そういう意味でしょうか。

(5番)

カラー写真を透明度を下げて何か加工してある，ちょっとあまり内容までは覚えていないのですけれども，カラー写真を使ってあったなという印象はあります。

(司会者)

イラストではなくて写真が加工ということによろしいですね。

(5番)

写真の上にイラストで描いたのか，その写真を加工してイラスト風にしたのか，そこまでは分からなかったのですけれども，生写真に近いような感じのものの上に何か加工してあるなという印象は受けました。

(司会者)

すみません。しつこいようですけれども，その生写真の上に，例えば薄い紙でトレースという感じで，なぞるような形で出したとかというものなののでしょうか。それとも，写真そのものにちょっとぼやかしてみたいな形で，フォーカスが少しぼやけているような感じにしたのでしょうか。

(5番)

どちらかというと，多分写真の上からなぞっているのに近い印象は受けました。

(司会者)

その他で何か，精神的に御不安を感じられるような証拠というのはあったのでしょうか。特にはなかったですか。

逆に包丁で刺した場所とか殴られた場所といった傷の状況を，人体図を使ってイラスト化するという方法で証拠を見たという方はいらっしゃいますか。

1番の方，4番の方，5番の方が手を挙げていただきました。

では，まず4番の方はどのようなイラスト画だったのでしょうか。

(4番)

お医者さんがカルテに書くような感じですね。手書きの人体図にどこが挫滅したとかということですね。

(司会者)

それを御覧いただいたときには、どのようにお感じになりましたか。

(4番)

裁判員の皆さんのショックを和らげるために、大分軽くなっているなという印象を受けました。もし本物の写真が示されていたならば、量刑の評議に影響していたのではないかなとも思いました。

(司会者)

4番の方の御担当された事件は、拳で顔面を相当多数回殴ったということで、亡くなられた方の顔面などが腫れあがっているとか、あるいは青く色に変化しているということが想像されるような事件だったのでしょうか。

(4番)

そうですね。顔以外にも腹部であるとか股間であるとか、危害を加えた箇所というのは相当数ありました。数にしたら百弱ぐらいではないかなと思われるような数です。

(司会者)

では、イラストでも相当衝撃的とお感じですか。

(4番)

そうですね。イラストからも、その度合いというのは伝わってきました。

(司会者)

ありがとうございました。

5番の方は殺人事件だったので、やはり刺した跡について人体図でその位置を示すような感じでしょうか。

(5番)

そうです。人体図にここに刺し傷がありましたというのが示されていました。

(司会者)

その後の他の証拠から、人体図のイラストの図が生々しく想像されてしまったり

とか、そんなお気持ちにはならないものなのでしょうか。

(5番)

自分自身は、そこまでは考えなかったです。自分は特にそういうものを見て気持ち悪いなど思わなかったのですけれども、他の裁判員の方を考慮して、ああいう形に表現してあるのだなというのは感じましたし、自分もそういう表現の仕方、わざわざ傷口を生々しく見せるとかというのはやらない方がいいのかなというふうには感じました。

(司会者)

ありがとうございました。

1番の方はどういう証拠だったのでしょうか。

(1番)

刺した箇所は全体のここです。そこから今度は、死に至らしめた部分がありますので、その部分を拡大したイラストがありました。その中で動脈とか静脈とかいろいろ走っているのですけれども、その辺の動脈を傷つけてしまったので死に至らしめたということになって、その辺が分かりやすく説明されていましたので、これの方が実際の写真等よりは分かりやすいのではないかなと思いました。

実際の写真は、かなり刺激的だと思われるので、こういったイラストの方が詳細に分かっていいのではないかなと思います。

(司会者)

今、1番の方がおっしゃったのは、人体図の中で刺した傷の部分を示したイラストがあったということですか。

(1番)

そうですね。

(司会者)

それから傷口についてももう少し拡大した、やはりイラストがあったということによろしいでしょうか。

(1 番)

はい。

(司会者)

それから、動脈の近くまで傷口があったという話というのは、解剖図のような絵ですけれども、それに、ここ辺りが刺し傷のところですよと示されたような説明図でしょうか。

(1 番)

そうです。

(司会者)

では、次の話題に移らせていただきます。

皆様は実際に裁判員裁判の法廷で検察官及び弁護人の活動を御覧になったわけです。皆様から見た当事者の活動に対する率直な御意見、御感想をお聞かせいただきたいと思います。

ここでは、検察官と弁護人とで分けてみたいと思います。

まず、検察官の活動ですけれども、起訴状の朗読に始まり、最初に冒頭陳述というものがあります。プレゼンテーションみたいなものですね。それから、採用された証拠書類の取調べ、例えば現場の写真とか供述調書の朗読というものがあり、更に、証人や被告人に対する質問、最後に論告、求刑というものがあつたかと思いません。

皆様から見て、この点は分かりやすかったとか、ここは分かりづらかったとか、ここは改めた方がいいとか、御自身が担当された事件についておっしゃっていただきたいと思います。

それでは、今度は5 番の方からお願いしたいと思います。検察官の法廷での活動について、よろしくをお願いします。

(5 番)

検察官の方の冒頭陳述の内容というのは分かりやすかったです。

証人に対する尋問というものに関しては、個人的には結構高圧的だなという印象を受けました。

裁判員の人たちに説明するときの流れとか説明の仕方というのは、非常に聞きやすく、かつ、結構ゆっくり話されていたなという印象はありました。こういうものなのかなとは思ったのですけれども、かなり情に訴えかけるようなしゃべり方をされていたなという印象も持っています。

論告の内容とかも分かりやすかったです。

(司会者)

5番の方が担当した事件では、起訴された事実には争いがなく、量刑が争点だったようだけれども、その中で、被告人の精神障害が犯行に及ぼした影響や飲酒による影響が被告人に有利に働くのかどうかということが問題となったようですね。

被告人の祖母が証人となって、被告人と被害者の関係などを証言したり、あるいは精神科の医師が証人となって被告人の精神障害を証言したようなのですけれども、先ほどの高圧的な態度というのは、どちらの証人尋問で表れたことなのでしょうか。

(5番)

自分的には両者にあつたかなと思っていて、多分事前にこういうことを聞きますよとか言われているのかなと思ったのですけれども、事前調査で聞いた結果に落とし込もうとしているのを感じたので、少し高圧的だなと感じました。

(司会者)

あまりいい気持ちはしなかったという趣旨なののでしょうか。

(5番)

そうですね、はい。

(司会者)

精神科の医師の証人尋問で、内容というのは理解されましたか。

(5番)

全体の流れとその医師の方の説明というのが非常に分かりやすくというか、流れ

に沿った話だったので、自分は理解できたつもりではいます。

(司会者)

被告人質問では弁護人の質問の後に検察官の質問があったと思うのですが、被告人に対する検察官の質問のやり方とか態度とかについては、どのようにお感じになりましたか。

(5番)

そこに関しては、特に嫌な気持ちになったというのはなかったです。ただ、被告人にした質問に対しての答えが返ってきていなかったということで、結構いら立ちを見せていたなという印象はあります。

(司会者)

ありがとうございました。

では次に、4番の方、御自身が担当された事件における検察官の法廷での活動について御意見、御感想をお願いいたします。

(4番)

私が経験した内容ですと、事実を争うことはなく、争点は刑の重さだというところでしたので、淡々と流れていて、はっきり言ってあまり検察官の印象は残っていないのです。

ただ、女性の検察官だったかなと記憶しているのですが、述べていらっしゃるときに、主語がはっきりしない部分があって、裁判長からその主語は誰ですかと聞かれていたことがありました。私自身も何か発言するときは主語をはっきりさせなければなと思ったほどです。

(司会者)

ありがとうございました。

4番の方が担当されました傷害致死事件では、被害者が先に手を出したといった事情があったようですが、最初の冒頭陳述では、事件の全体像というのは把握できましたか。

(4番)

全くできませんでした。非常に入り組んでいた内容でしたね。

事実を争っていないということなのですからけれども、全体像を把握するのに2日から3日ぐらいかかったような気がします。

(司会者)

評議といわれている話し合いの辺りからは、御自身なりに全体像がつかめてきたかなというお気持ちですか。

(4番)

そうですね、はい。

(司会者)

現場にいた方が証人になっていたようなのですけれども、その現場にいた方の証人尋問、検察官の尋問についてはいかがだったでしょうか。

(4番)

特に印象はありません。

(司会者)

他にも周囲にいた方についての供述調書があつて、その朗読も最初的时候にあつたようですけれども、この供述調書の朗読について、何か御印象とかはございましたか。

(4番)

特に印象はないですね。

(司会者)

論告ですけれども、4番の方から見ると、分かりやすさとか説得力という点ではどのような印象でしたか。

(4番)

分かりやすいとも分かりにくいとも思わなかったですね。

(司会者)

ありがとうございました。

では続いて3番の方、御自身が担当された事件における検察官の法廷での活動について御意見、御感想をお願いいたします。

(3番)

記憶がそんなにあるわけではないのですがけれども、そんなによく分からないとか、高圧的だというような印象はなかったです。

ただ、被告人の精神的な部分の裁判だったので心神耗弱とかいろいろな名前が出てきて、それはどういう違いがあるのだろうかというのが、時にはよく分からないところがありました。

(司会者)

3番の方が担当された事件は、起訴された事実には争いがなくて、量刑が争点だったようですね。

その中で今おっしゃったように、被告人が事件当時、精神疾患にかかっている状態であったことは、検察官も弁護人も争いがなかったようなのですが。

ただ、精神疾患が犯行に与えた影響とか、今後の被告人に対する治療といったことでは問題があったと、そのような理解でよろしいのでしょうか。

(3番)

はい。そのように記憶しています。

(司会者)

最初の検察官の冒頭陳述で、今、私が少し申し上げたような争点というか、ここがポイントなのだということは御理解されましたでしょうか。

(3番)

あまり記憶にないので、したかどうかというのはよく覚えてはいないのですが。

(司会者)

あと、捜査段階で鑑定をした精神科の医師が証人になったようですけれども、この証人尋問についての御印象はいかがだったでしょうか。

(3番)

女医さんだったと思うのですけれども、こと細かくいろいろ説明してくれて、私たち素人にとっても分かりやすかったと記憶しています。

(司会者)

この事件では、実刑か執行猶予かということで、検察官と弁護人の主張の対立があったわけですね。実刑を主張した検察官の論告については分かりやすさ、あるいは説得力という意味ではどのように思いましたか。

(3番)

全然おかしいというわけではありませんでした。おっしゃるとおりだなという部分もあったと思うし、精神的な部分で心神耗弱とかの影響でそういうことに陥ったというようなことも分かるような気がします。

(司会者)

ありがとうございました。

では2番の方、御自身が担当された事件における検察官の法廷での活動について御意見、御感想をお願いいたします。

(2番)

非常に淡々というかビジネスライクに論点を列挙されて、何の反発も食らうことのないような説明をされていたので、正にそのときは、心情があまり含まれていなくて、えらいビジネスライクだなという印象を持っています。

(司会者)

2番の方が担当された事件では、被告人が運転していた自動車の同乗者あるいは目撃者が検察側の証人になったようなのですが、検察官の尋問というものはどのような印象でしたでしょうか。

(2番)

あまり争うようなことがない案件だと思うのですね。一つは、酒を飲んでいたという辺りのことがあまり争点になっていなかったのも、飲酒運転で良くないのにテーマに挙がっていないのはおかしいなと思いながら、淡々と進められていたと思います。

(司会者)

2番の方の担当された事件では、被告人が事故後に証拠隠滅工作をしたかどうか、特に飲酒の件では判決書によるとかなり議論されたのかなと思うのですけれども。

(2番)

夏の海水浴へ行ってアルコールを3杯か4杯ぐらい飲んだということですがけれども、その点は争点にはならなかったのです。

(司会者)

そうしますと、検察官の方の立証活動、証人尋問とか証拠書類で出した内容からは、今、2番の方がおっしゃっていた飲酒というものについて、裁判員の方に注目してほしいとか、浮き上がらせるとかそういう感じではなかったということなのでしょう。

(2番)

そうですね。自動車でぶち当てて人が一人死んで二人がけがをして倒れてしまったというのは、防犯カメラで見て事実が分かったもので、論点はそれ以上深まっていかなかったのかなという感じもするのです。

(司会者)

あと、検察官請求の証拠書類の取調べについて、合計で120分ぐらい時間を割いているようなのですけれども、その中身とか、随分長過ぎるとか、そんな印象はあったでしょうか。それとも、必要だからやむを得ないなという御印象なのでしょうか。

(2番)

2時間の記憶はあまりないのですけれども。

(司会者)

スケジュール的には午前中に60分、午後にも60分という時間配分のような感じだったのですが、あまり長いとかという印象はないですか。

(2番)

全然ないです。攻めるといいますか、情状をあげつらっていくのに、テーマとしてはこういうものだということを説明しているのですが、それは全部腑に落ちるものですから、長いものではなかったです。

(司会者)

ありがとうございました。

それでは、最後に1番の方、御自身が担当された事件における検察官の法廷での活動について御意見、御感想をお願いいたします。

(1番)

事実を淡々とお話ししていただけるのですが、若干早口でまくし立てるような部分があったかなと。途中からもう一方、検察官が加わってお話をされたのですが、そちらの方はベテランの方だったような気がして、割とゆっくりと話されると記憶しております。

(司会者)

検察官の冒頭陳述は、事件の全体像はつかめたでしょうか。

(1番)

事実を淡々と説明していただけるので、全体像はつかめています。

(司会者)

この事件では、被告人質問が最初だったと思うのですが、弁護人の質問を受けて、今度は検察官の順番になって質問されたと思うのですが、検察官の質問について何か御印象等はございましたでしょうか。

(1番)

割と大きな声で話される検察官だったので、声の割には少しやんわり

とした質問の仕方かなという印象は残っております。

(司会者)

もうちょっと突っ込みが欲しいと、そういう意味ですか。

(1 番)

そうですね。声が大きい分だけ、そこまで突っ込んでしまうと高圧的になってしまうので、やはり大きい分だけ少し抑えて質問されているのかなという印象が残っております。

(司会者)

ありがとうございました。

それでは、今度は弁護人の法廷での活動について御意見、御感想を伺いたと思います。

弁護人の活動としては、起訴状の公訴事実に対する意見に始まり、冒頭陳述、いわゆるプレゼンがあり、その後、証人尋問や被告人質問、さらには証拠書類として被告人が書いた反省文とか示談書などがあつたかもしれません。そして、検察官の論告に続いて弁論があつたと思います。

皆様から見てこの点は分かりやすかったとか、ここは分かりづらかったとか、ここは改めた方がいいとか、御自身が担当された事件についておっしゃっていただきたいと思います。

再び5番の方からお願いいたします。弁護人の法廷での活動です。

(5 番)

全体的に話が非常に分かりやすくて、話し方とかもこちらに訴えかけるように話してきたし、話している内容も被告人を過度に守るというものは感じられず、非常に好印象を持つような内容でした。

(司会者)

被告人の祖母に対する検察官の主尋問に続いて弁護人が反対尋問をしたと思うのですけれども、何か御印象等はございますか。

(5番)

正直言いますと、あまり印象はなかったのですが、恐らく特に変だなと思うところはなかったのだと思います。

(司会者)

被告人質問について、精神的に少し問題を抱えた被告人だったみたいですがけれども、被告人質問では、まず弁護人の方から質問を始めると思うのですがけれども、何か御記憶等がございますか。

(5番)

非常にやわらかい聞き方をしていたなという印象があります。多分それは被告人の性格、性質を考えてそういうふうにしたのだな、配慮しているのだなというのはいました。

(司会者)

ありがとうございました。

次に4番の方、弁護人の法廷での活動についてはいかがだったでしょうか。

(4番)

私の担当した事案については、検察側と弁護側、双方が述べていることは一緒に矛盾はないものでした。

ただ、弁護側で1点、それはどうなのかなと思ったことが、被告人が事件前日、午前7時から当日の朝5時まで約二十何時間、丸一日寝ていなかったと。事件を起こした前日の22時ごろから事件発生まで、3店舗をはしごして酒を飲み続けたという状態だったのです。

そのときに疲れと酔いで被告人は感情を抑制できにくい状況にありましたというのですがけれども、普通、人はそれだけやったら寝てしまうのではないかなと思うところで、果たしてこれは感情を抑制できない状態だったのかな、これはどうなのかなと疑問に思ったことはありましたね。

それ以外は特にありません。

(司会者)

それは、弁護人の主張がやはり納得できないような主張に思えたという印象ですかね。

(4番)

そうなのです。

(司会者)

4番の方から見ると、そのおかしいというか疑問というものとは他の弁護人の主張、分かりやすかったとか説得的だったという部分にも影響を与えるものなのでしょうか。

(4番)

そうですね。それはそのとおりだと思います。

(司会者)

ありがとうございました。

では3番の方、弁護人の法廷での活動についてはいかがだったでしょうか。

(3番)

これもそんなに特別おかしいということにはなかったと記憶しているのですがけれども、大ざっぱに言ったら、少し機械的というか、質問がこういう質問というような、私は弁護士さんのことはよく分からないのですがけれども、もっと訴えかけるというか、こうではないのですかという言い方が機械的っぽくないかなという印象がありました。その内容がおかしいとかというわけではないのですが、聞き方なりこちらに言うことなりが機械的っぽいという印象があります。

(司会者)

ありがとうございました。

実刑か執行猶予かで当初から争われているような話のときに、弁護人の方の活動というのが機械的ということは、逆に熱意とか熱気とかという面ではあまり感じられなかったという趣旨なのでしょうか。

(3番)

はい。被告人に質問するときも守ってあげるといふか、こうなのだよねという言い方ではなかったような、私だけかもしれないのですが、そういうように受け取れた記憶があります。

(司会者)

精神科の先生に対する尋問を弁護人もなさったと思うのですが、検察官の尋問に引き続いて弁護人が行う場合に、弁護人の尋問の仕方、意図とか質問の流れというものについては何かお感じになったことはございましたか。

(3番)

それはあまり記憶にはないです。

(司会者)

ありがとうございました。

では2番の方、弁護人の法廷での活動についてはいかがだったでしょうか。

(2番)

これも先ほどから言いましたように、非常にはっきりした事案なものですから、弁護人としてもかばいようがないから、もう平伏低頭という印象で、ただひたすら謝っているようなお話をされていたように思うのです。

(司会者)

事実に争いが無いといっても、被告人のこういうところは有利な情状だとか酌むべき情状だとかというように、弁護人から見たこの状況の見立てとか立証の力点というものは感じとれたでしょうか。

(2番)

やはりかばうという話ぶりで、非常に若い青年だからというような部分もあるのかもしれませんが、そういうことに対して誤りを正してやりたいがために非常に優しいといふか、いろいろなことで腰を引いた発言をされていたように思うのです。

(司会者)

被告人質問では、被告人の事件当時、悪かったこと、あるいは、良かった点というのは、何か工夫とか浮き彫りにするとかということは、弁護人の質問の中では感じられたでしょうか。

(2番)

その辺りは、伏線的には前に少年院に入っていたとか、少年時代のことをわかっているから、その弁護人が多分前から知っているのではないかという気はしたのです。実際、どうだったのかは分からないのですが、そういう意味で、よく御存じだなというのは、いろいろなことを説明、弁護されている内容については、よく御存じだなという気はしました。

(司会者)

被告人のこれまでのことを頭に入れて、把握された上で、被告人質問に臨んでおられるなど、そういう趣旨でしょうか。

(2番)

はい、そうです。

(司会者)

ありがとうございました。

最後に1番の方、弁護人の法廷での活動についてはいかがだったでしょうか。

(1番)

この事案は、量刑が争点になる事案でありましたので、情状酌量の点がかなり主張されているように思いました。

弁護人の方は二人ついたのですけれども、お二方とも割と淡々と説明をしていただきまして、内容はよく分かりました。

(司会者)

この事件では、被告人は難病にかかっていたというところがあって、その難病について、弁護人の方から申請した医師の証人尋問があったと思いますが、その尋問の意図とか尋問の流れというのはいかがだったでしょうか。

(1 番)

それは的確でしたね。

(司会者)

病名がなかなか分かりにくい病名だったと思うのですが、その説明なども分かりやすかったということですか。

(1 番)

はい。分かりやすかったです。

(司会者)

論告に続く弁護人の弁論ですけれども、印象としてはいかがだったでしょうか。

(1 番)

やはり量刑を争点として、被告人を弁護する立場から、この辺が争点になるというところをかなり主張してきた話し方でしたね。

(司会者)

辩护人側から見たら、それは納得できるということでしょうか。

(1 番)

はい。納得できますね。

(司会者)

ありがとうございました。

ところで、3 番の方が御担当された事件以外は、論告または弁論において量刑グラフが示され、今回の事案は重い部類だとか、中間からやや重い部類に属するなどといった説明がなされているようなのです。

皆様は、こうした検察官や辩护人による量刑グラフの説明を受けて、どのようにお感じになられたでしょうか。そのときに受けられた感想をおっしゃっていただければ有り難いと思います。

まず、5 番の方はいかがでしょうか。

(5 番)

検察官の方が出されたグラフを見て求刑いくつというふうにおっしゃっていたのですけれども、少し重めかなという印象は受けました。

弁護人の方は妥当かなという印象を受けています。

(司会者)

論告や弁論のときに量刑グラフを示した上でそれぞれ意見を述べたことについては、評議には役に立ったと、あるいは土台になったという理解でよろしいのでしょうか。

(5番)

非常に役に立ったと思っています。

(司会者)

ありがとうございました。

では、4番の方はいかがだったでしょうか。

(4番)

量刑グラフは検察側、弁護側ともそんなに年数に差はなかったと思います。

ただ、検察側が示した懲役の年数というのが、ちょっと長いかなという気はしましたね。

(司会者)

その後、評議でも裁判官から説明を受けたり示されたりしたことがあったと思いますが、最初の論告や弁論で示されたときと印象に違いというのはあったのでしょうか。あまり差はないものなのでしょうか。

(4番)

差はないですね。

(司会者)

ありがとうございました。

3番の方は多分論告や弁論では量刑グラフは示されなかったと理解しておりますけれども、それでよろしかったですか。

(3番)

はい。

(司会者)

1番の方はいかがでしょうか。

(1番)

検察側と弁護側で示されたのですけれども、若干の年数の開きがありまして、その中でこれから評議を決めていくのだらうなという印象は持ちました。

なので、このグラフは大ざっぱに言えば、検察側、弁護側の主張点がありますので、年数というのは参考にはできました。

(司会者)

そうしますと、その後に評議のときにも、また裁判官から量刑グラフを示されて説明とかがあったかもしれませんが、あらかじめ論告や弁論でそういうグラフを示されたことは気持ちの上でも、あるいはどこあたりが争点になるのかということ把握する上でも役に立ったという御印象ですか。

(1番)

そうです。大変参考になりました。

(司会者)

ありがとうございました。

では、ここで現職の検察官、弁護士の方から経験者の方々に対して御質問等がございましたら、お願いしたいと思います。

まず寺尾検察官、どうぞ、お願いします。

(検察官)

今、貴重な御意見をいろいろ伺いまして、一番気になっているのは、もともとの捜査の際、あるいは公判中に作られた証拠というのはかなり膨大なものになるのですが、裁判員の方の御負担とか日数も考えて、皆さんが評議をするのに必要最低限のものに絞った形で証拠を統合しております。

出された証拠で十分だという感想を持たれたか、それとも、もう少しこういう証拠があったらわかりやすかったのにというものがあったのか、その点について伺いたいと思います。

(司会者)

検察官側が出された証拠書類あるいは証人尋問では、有罪にするのに十分かとか、検察官が論告で出した求刑に十分だということなのか、それとも少し物足りないと思われたか、まずその二者択一でお伺いしたいと思います。

挙手をお願いできますでしょうか。

まず検察官側の方の立証です。証拠書類とか証人尋問で十分だと思われた方は挙手をお願いします。

5人中4人の方が手を挙げられました。4番の方が挙げられませんでした。

4番の方としては、少し物足りないと思っておられるということでもよろしいでしょうか。

(4番)

はい。

(司会者)

御記憶の中でどういう部類、どういう内容が少し物足りないと思われたのかをおっしゃっていただけないでしょうか。

(4番)

私以外の事件ですと被告人というのは一人で何か犯罪を起こしたというものなのですが、私の場合ですと、こういう表現は適切ではないと思うのですが、悪い仲間がたくさんいて、その悪い仲間の中でのいざこざだったのです。ですから、複数名が何か加担していたり、何か変な入れ知恵をしたのかという疑念を挟む余地が結構ありました。

ただ、検察官がいろいろ被告人に対して質問されているときに、被告人の表情を見ていても、それは違うよなどという顔もしていないのですね。だから、事実なの

かなと思いながら話を聞いていました。

でも、もう少し何か知りたかったなという気持ちはあります。

(司会者)

そうしますと、4番の方が言いたかったのは、その現場には被告人と被害者以外にも知り合いが何人かいて、検察官の主張は被告人だけの単独犯行という見立てで起訴もして立証もしているけれども、どうも他の人も手を出しているのではないかとか、あるいはその辺りのところが、被告人以外の方を除外するだけの証拠がもう少しあってもいいなと、そんな趣旨でしょうか。

(4番)

そうなのです。というのも、犯行現場の防犯カメラに映っていた映像を見ても、暴行を加えた被告人と暴行を加えられた被害者と、それ以外の人間も大勢映っているのです。それで、けがをしている被害者が台車に乗せられて宿舎まで運ばれる様というのでも映っていました。その中にもその仲間が映っていたのですよ。

(司会者)

ありがとうございました。

もしも御質問があれば、どうぞ他の質問も。

(検察官)

検察官の法廷での活動ということについて、割と皆さんがあまり印象に残らなかったとおっしゃっていただいたので、ある意味で少しほっとしているというか、検察官は事件を説明しなければならないという一つの役割があるので、印象に残ってしまうというのは恐らく悪目立ちをしていて、ここが分かりづらかったから印象に残っているというようなどころがあるのだと思います。

先ほどのお話だと、あまり印象に残っていなかったということで、何人かは少し高圧的なところを感じたですとか、事前に話さなければいけないところに落とし込もうとしているようだったというのはすごく耳が痛いお話ではあるのですが。

もし検察官がこういうことをしてくれたら、もう少し分かりやすかったのかなと

ということがあれば、参考にさせていただきたいので述べていただきたいと思います。

(司会者)

いかがでしょうか。

(5番)

お仕事だから仕方ないなというのが正直な印象なのですが、多分こういう筋道でいこうというのはもともとあるのだなという印象があったのですが、それ以外に対しても多少なりとも、別の回答が来たとしてもストーリーが成立できるような余裕度みたいなのは少し持っていたらいいかなとは感じました。

(司会者)

ありがとうございました。

他の方はいかがでしょうか。今から振り返ってみて、検察官にこういう姿勢でとか、こういう立証方法がなどというお気持ちがあれば、おっしゃっていただければと思いますが、いかがでしょうか。

今日いらっしゃった皆様は検察官の冒頭陳述あるいは論告については、どの方も分かりやすかったと、ビジネスライクという表現もありましたけれども、要は証拠に基づく裁判ということでは職責を果たされているという印象なのですかね。

他に何かございますか。3番の方が情感あふれる立証というのをおっしゃっていたのですが、3番の方の事件では、弁護人の方ももう少し情があればよかったのというようなことをおっしゃったように記憶していますけれども、そこの辺りはいかがなものなんでしょうか。

(3番)

検察官だと犯罪をこういうふうにしたのでということで、こういうふうにしたからこれぐらいの有罪ですというのは何となく分かるのですが、弁護人の方ももう少し、私の印象なのですが、弁護をしているというような感じにはちょっと受け取れなかったというのはありました。

(司会者)

ありがとうございます。

寺尾検察官はよろしいですか。

(検察官)

はい。ありがとうございました。

(司会者)

では、豊島弁護士，どうぞ，お願いします。

(弁護士)

弁護人としては、今回は自白事件ですので、自白事件の場合は、やはり被告人の話をしっかり聞いていただきたいという思いで、どの事件も弁護活動をするのですが、今回の件ですと1番さんの事件と5番さんの事件が、初日に被告人質問をされていて、特に1番さんは初日で被告人質問が終わって、もう被告人が話す場面が最終陳述だけというような形になってしまうということについては、先ほど来、1日目はすごく緊張して始まるというようなところと合わせると、あまり早い段階で被告人質問をするというのは、被告人から話すと事案がよく分かるというメリットがありますけれども、その辺をどう考えた方がいいのかなというのを一つお聞かせいただければと思います。

(司会者)

1番の方，いかがでしょうか。

(1番)

確かに初日から重いなという気はします。これを見ると、結構いろいろなことが初日に詰まっているなという印象なので、ここは2日ぐらいかけてじっくりやった方がいいのではないかなという気はいたします。

(司会者)

1番の方の事件では1日目に被告人質問があつて、2日目に担当したお医者さんの話があつたわけですね。その後に、もう一度被告人質問の機会があつたら良かったとお思いになりますか。

(1 番)

それはあった方がいいような気がします。

(司会者)

1 日目に早いうちに被告人の口から事件の内容を話してほしいという気持ちは否定しないけれども、少し時間が空いて2 日目に、もう1 回被告人に聞いてみたいということがあるかもしれないという気持ちはありますか。

(1 番)

それはありますね。

(弁護士)

5 番さんも初日に被告人質問があったのですが、いかがですか。

(5 番)

先ほど出た意見と全く一緒で、自分の場合も精神鑑定医の尋問というのがあって、その後にまた被告人質問があれば、被告人の背景を知った上で物事が聞けるということで、そういうのがあれば良かったなど、今、聞いて思いました。

(弁護士)

別の質問になるのですが、皆さん、量刑グラフが非常に参考になるというお話がございましたけれども、実は弁護人としては量刑グラフを使うのはなかなか難しいところもございます。

例えば4 番さんの事件の弁論要旨を拝見しますと、何グループという分け方になっていて、そのグループの分け方についての説明がその後されてはいるのですが、こういう分け方で裁判員の方がうまく御理解、納得いただけるような提示の仕方になっているのかというのを、評議に関わらない範囲で教えていただければと思います。

(4 番)

こういう三つのグループ分けしたというのは数字の切り取り方なので、見せ方にもいろいろありますねということは思ったのですが、果たしてこの三つのどこに属

しますかというふうに聞かれてしまったら少し困るかなというところがありますね。

(弁護士)

量刑グラフを使って弁護人の意見を述べている弁論も幾つもあるのですが、どういうふうにこの量刑グラフを使って何年というふうにつなげていけばいいかというのは、いつも非常に悩んでいて、どうすればいいのかなといったところなのですが。

(司会者)

4番の方の事件の弁護人の弁論要旨を見ますと、量刑グラフがあって三つのグループ、すなわち執行猶予グループが10件、懲役3年から5年の間のグループが17件、懲役6年から9年のグループが14件と、三つの分析を弁護人がなさっているということが出てくるわけですが、4番の方がそういう切り取り方とか評価というものはなかなか難しいし、それを弁護人がなさる分には聞くけれども、そんな趣旨なのでしょうか。

(4番)

そうです。一般企業でもこうやってグループ分けしてデータを示してあるということはよくやることではあるのですが。

ただ、法律家の先生の皆さんはそういう考え方をなさる人もいます。でも、法律については全くの素人の我々が考えるときに、類似する事件というのはどういうことで何年だったのかというのを知りたかったのです。

それもあるので、ちょうど評議を2日半ぐらいかけてやっていったのですけれども、そのときに裁判官に、類似する事件はこんなのがあったよというのをいろいろ示していただいて総合的に判断しました。

(司会者)

ありがとうございます。

量刑グラフは評議のときに多分どの裁判体も使っていると思っております。量刑グラフを示すことの意味というのは、いわゆる公平性の観点からという説明があったと思います。全く同じ事件というのは一つもないわけですが、同じような

事案については全国どこの裁判所でも同じぐらいの刑が科せられるのが公平でしょうと。

ただ、裁判官サイドから言うと、あまり細かく事例を説明してしまつて、似たもの探しになることを恐れています。だから、傾向という説明はしますけれども、個々にこういう事件はこうですとか、懲役何年の事件はこういう事件ですというような説明は避けていると思うのですが、皆様の方はいかがだったでしょうか。そんな感じなのですか。もう少し具体的に分析的になさっていましたか。

裁判員の方が聞かれれば答えるかもしれませんが、裁判所からの説明はあまりしないのではないかなという印象なのですけれども、その辺りは少し評議の中身になってしまうかもしれませんが、何か御意見とか御感想とかはございますか。

(5 番)

自分が関わった裁判では裁判官の人たちにそのグラフを見せていただいて、例えば検察の人たちが何年と言っているのですけれども、それに相当する事件はどういうのがあったのですかというのを聞いたら、何個か見せてくれて、該当するね、しないねという話で。

次に、弁護人に当てはまるのはどうですかというので見せてもらって、これも該当する、しないというので。

裁判官は自分たちの質問に対しても答えてくださいましたし、その周辺の資料も見せていただいたので非常に役に立ちました。

(司会者)

ありがとうございました。

他の方は何か印象とか御意見とかはございますか。

では、豊島弁護士、まだ他にございましたら、どうぞ。

(弁護士)

ではあと 1 点。

手続の最後に検察官の論告と弁護人の弁論がございます。弁論は、最後の弁護人

の意見というような形で、裁判の相当前から準備をして直前まで手を入れて、裁判員の皆様が評議の場でこれを見て弁護人の味方になってほしいという気持ちで弁論を作り、意見を述べるのですが、その弁論を、審理をして、その日の夕方とかに一気にやる方法と、別の日にして弁論をするというやり方があるのかなと思っています。

実際今回もいろいろありましたけれども、裁判員の皆様が審理を聞かれて分かっている状態で辩护人、検察官の意見を聞く方がいいのか、それとも審理は相当疲れると思いますので、疲れた状態ではなくリフレッシュして、翌日になったらリフレッシュできるかどうかは分かりませんが、翌日に新たにまたお聞きいただくというのが、事案によって違うのでしょうかけれども、どちらがいいのかなというのはいつも考えてはいます。

その辺はいかがでしょうか。

(司会者)

今のお話は、証拠調べに引き続いて論告、弁論があるのがいいのか、要するに同じ日にやるということはどうなのか、それとも日を改めて朝一で論告、弁論を始める方がいいのかと、そういう趣旨でよろしいのでしょうか。

(弁護士)

はい。そういう質問であります。

(司会者)

皆様いかがでしょうか。証拠調べをして、例えば1時間でも2時間でも休憩した後、論告、弁論という形と、もうその日はしないで、日を改めて論告、弁論という形がいいのかというお尋ねだと思いますが。

1番の方は、スケジュール的には約2時間半ぐらい間をおいて論告、弁論が行われたようなのですが、日を改めてほしかったなという気持ちとかはありますか。

(1番)

逆にその日のうちにやってしまった方が、ストーリー的に全部つながっていきま
すので、その日のうちの方がいいと思います。

我々裁判員にとってはスケジュール的に少し厳しいのですけれども、その方が多
分次の評議のときにかなりいい方に働くのではないかなと思います。

(司会者)

2番の方は、3日目に被告人質問が終わって、多分論告、弁論をしようと思えば
できるだけの時間は午後にあったのかなと思うのですけれども、4日目の朝から論
告、弁論になっているようですけれども、もう3日目にやってほしかったなという
ようなお考えとか印象はございますか。

(2番)

最初に日程などをいただいているものですから、特に何の不思議もなく参加して
おりました。

(司会者)

ありがとうございました。

3番の方の事件のときは翌日ですね。2日目に被告人質問を行って、翌日の朝か
ら論告、弁論になっていましたね。もしも続けてできるのであれば、続けてやった
方がいいという気持ちはありますか。

そうすると、3日目の朝からは評議をずっとやるというような形になると思うの
ですね。

(3番)

いいえ。特に前の日が良かったとか、次の日がいいとかということはなかったで
す。

(司会者)

ありがとうございます。

4番の方は、被告人質問の後、2日目の3時45分から論告、弁論が始まったよ
うですけれども、何か御意見、御感想はございますか。

(4番)

私はこの流れで良かったと思っています。

仮に翌日にとということであると、頭から飛んでしまうこともあると思うのですね。朝一番というのはどうしてもエンジンをかけるのに時間が掛かりますから、私はこの流れで大変良かったと思っています。

(司会者)

ありがとうございます。

5番の方は3日目の朝一番に論告、弁論という形だったようですね。多分日程的には2日目に、精神科の医師の証人尋問の後に論告、弁論ということも時間的には可能だったようですけども、何か御意見等はございますか。

(5番)

自分も続けてやってほしかったなというのがあって、それは二つの意味があります。一つは話の流れがスムーズに行くというのでやってほしかったというのと、あともう一つが、一応働いていますのであまり長い期間、拘束されたくなかったなというのが正直なところですよ。

(司会者)

日程の関係で、今、5番の方がおっしゃったことに関連しますけれども、皆様、お勤めとか御家庭の事情等をお持ちの方の中で、裁判員裁判の日程というのはできるだけ短い方がいいと思っているのか、あまり朝の9時半から夕方5時までぎっしり詰められるよりも、少し余裕を持って日程を消化してもらおう、そのためには1日、2日長くかかっても仕方がないと思っておられるのか、その点はいかがでしょう。

(1番)

それは事案の内容によるのではないのでしょうか。量刑を争点とするものであれば4日から5日ぐらいかかるでしょうし、全くの最初からやるような裁判であれば10日ぐらいになってしまうだろうから、その辺は裁判の内容によるかと存じます。

(司会者)

ありがとうございます。

他の方はいかがでしょうか。やはりケース・バイ・ケースという感じですか。それとも、可能な限り短い方がいいというお気持ちですか。

(5番)

少し矛盾してしまうのですが、話を理解するという上では、長くとっていただいた方が話は理解できるのでいいかなと思うのですが、実際に仕事とか日程とかを考えると非常に短くしていただいた方がいいと、ちょっと矛盾する意見で申し訳ないのですが、そう思いました。

(司会者)

他の方は、何か御意見等はございますか。

より慎重に証拠を見たいと、それこそ捜査段階ではものすごい段ボール箱2箱、3箱それ以上の証拠書類がある中で、検察官と弁護人が調整して凝縮した証拠を出しているということがあるわけです。だけれども、裁判員の方からは物足りない。もっと証拠を見たい、あるいは逮捕当初の状況はどうだったのかということを知りたいというお気持ちもあるように私も聞いております。

そういう意味からいくと、長い方がいい、あるいはより納得できるような事実の解明をしてみたいというお気持ちは強いのでしょうか。

4番の方は、先ほどの御意見だと、もう少し証拠を厚めに見てみたいというお気持ちが強かったのでしょうか。

(4番)

はい。そのとおりです。事件の内容によるからだとは思いますが。

(司会者)

ありがとうございます。

よろしいでしょうか。

(弁護士)

ありがとうございました。

(司会者)

では、次の話題ですけれども、法廷での審理が終わって評議というものに入ります。裁判員の方々と裁判官とで話し合いをするということでもあります。守秘義務の問題がございますので、御自身を含めてどのような意見が出されたのかとか、どのような議論の流れだとか、結論はどのようにして決まったのかなどといったことは御配慮いただければ有り難いと思いますけれども、評議は話しやすい雰囲気だったのでしょうか。また、十分な議論ができたとお思いでしょうか。

今から振り返って御感想をいただければありがたいと思います。

(1番)

雰囲気は非常に良かったと思います。裁判官の方は3名いらしたのですけれども、話しやすい雰囲気を常に作っていただいて、若干事件に関連するところから脱線しても、また少し修正をしたり、という感じでしたね。

評議の議論についてはいろいろありましたけれども、皆さんが屈託のない意見を出せるような雰囲気でしたので、皆さんで意見を出しつつ最後の結論に至ったという感じです。

(司会者)

ありがとうございました。

(3番)

雰囲気が良くないとか、裁判官の人たちがどうこうということは全くなくて、いい雰囲気で評議は続けられたとは思っています。

十分な議論ということに関しては、最後までみんなで、どうしようということと話をしたので、良かったのではないかと思っています。

(司会者)

ありがとうございました。

(4番)

裁判員，皆の意見に裁判官の方がとてもよく耳を傾けてくれました。特にすばらしいなと思ったのは，最後に判決文をみんなで練り上げるというときに，皆さんの個々の意見をちゃんと取り入れて最後にまとめてくださったことです。やはり自分のこう思うという気持ちを判決文に入れていただいたのは，私はとても良かったと思っています。

(司会者)

ありがとうございました。

(5番)

雰囲気については非常に発言しやすい環境をつくっていただいたなと感じております。

十分な議論については，検察官の方たちと弁護人の方たちの資料を元に，それぞれの方たちが主張している点が非常に分かりやすく書いてあるので，これを元に話すことができたので，非常に十分な議論ができたなと感じております。

4番の方と同じように，最後の判決文を練り上げるときに，これも自分の意見とかを取り入れていただいたり，非常に裁判員の人たちの意見を裁判官の方は聞いてくださったというのが非常に良かったなと思いました。

(司会者)

ありがとうございました。

では，西沢裁判官の方で何か御感想なりお尋ねになりたいことがあれば，お願いします。

(裁判官)

1番の方と3番の方と5番の方に伺いたいのですが，1番の方，3番の方，5番の方のときにはお医者さんの証人尋問があったかと存じます。証人尋問のときは検察官，弁護人から質問があって，その後一旦休憩を挟んで，裁判所の方から質問をしていたという流れだったと思うのですが，お医者さんの話はやはり医学的な話がなかなか難しいかなと思って，実際に皆さんがお医者さんの尋問を聞

いて自分たちが質問しようという前に、お医者さんが何を話したのか、そしゃくする時間というのをもう少し長めにとってほしいなどという印象があったかどうかを1番、3番、5番の方にお聞かせいただけたらと思います。

お願いします。

(1番)

被告人の病名が特異な病名がついていましたので、この病名は非常に聞き慣れない病名なので、どういう症状が出るのか、どういう薬を飲まなければいけないのかというのは、少しその前にあった方がよかったかなと思います。

その前に若干の説明はありましたけれども、本当にそうなのかなと。

(裁判官)

自分たちで尋問に臨む前に、もう一度その話したことをそしゃくする時間が欲しかったということですか。

(1番)

そうですね。

(裁判官)

ありがとうございます。

(3番)

2日目の10時から鑑定医の先生の質問があったのですけれども、検察官と弁護人が質問をして、その後、私たちは30分休憩があったので、そのときに1回私たちの控え室に戻ってみんなでどういうことなのだろうとか、こうじゃないのかああじゃないのかということをして、そんなに分からないとか、そのまま流れてしまったとかということにはなかったように記憶しています。

(5番)

自分の場合は、聞き慣れない名前ではあったのですけれども、被告人の経緯とかを聞いて、鑑定医の話を聞いて、すごく乖離があるとかそういうものではなかったので、話自体はすぐに理解できたので、特に時間をとる必要というのではないかなと

個人的には思いました。

(裁判官)

ありがとうございます。

(司会者)

皆様、もう一度裁判員の候補者に選ばれてみたら、またやってみたいというお気持ちはあるでしょうか。

やってみたいというお気持ちの方、恐れ入りますが挙手をお願いできますか。

5人中3人の方が手を挙げられました。

挙げられなかった方はやはりしんどい、あるいは疲れたなというお気持ちの方が強いのでしょうか。

(2番)

もういい年なものですから、あとは若い人にお任せした方がいいのではないかと思います。

(5番)

自分は疲れたとかそういうのではないのですけれども、これは後でちょっと調べて知ったのですけれども、裁判員裁判というのは死刑とかを扱うものもあるというのを後で知って、今回はたまたまそういう事件ではなかったのですけれども、もし自分がそういうものを担当することになったときに、その人が死んでしまうかどうかというところの選択を迫られたときに、それを自分ができるかなと考えたら、ちょっとそれはやりたくないなということで、参加したくないというふうにしました。

(司会者)

ありがとうございました。

最後に寺尾検察官、または豊島弁護士の方から何かお尋ねになりたいことはございませんか。

(弁護士)

十分です。ありがとうございます。

(司会者)

では、裁判员経験者の皆様，本日はお忙しい中，長時間にわたりまして御協力いただきまして誠にありがとうございました。

本日，皆様からいただきました御意見，御感想をもとに今後の運用に役立てたいと存じます。

それでは，これをもちまして意見交換会を終了させていただきます。

以 上